

望ましい人間関係の確立をめざして

ー総合的な学習の時間における開発的カウンセリングを通してー

南風原町立翔南小学校教諭 又 吉 孝 子

内容要約

望ましい人間関係を確立するために、総合的な学習の時間に開発的カウンセリングの手法を取り入れる工夫を試みた。

児童理解をもとに、学級の実態に即した開発的カウンセリング（構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング）の手法を取り入れ、人間関係づくりのスキルを高めるとともに、総合的な学習の時間の活動を通して実践化を促した。

その結果、互いに認め合い、自他の考えを伝え合うことができるようになる等、望ましい人間関係が育まれた。

【キーワード】 望ましい人間関係 構成的グループエンカウンター ソーシャルスキルトレーニング アサーショントレーニング 総合的な学習の時間に生かすカウンセリング

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究内容	52
1	望ましい人間関係	52
2	総合的な学習の時間で生かす開発的カウンセリングの手法	52
III	授業実践	55
1	単元名	55
1	単元設定の理由	55
3	単元の指導目標	56
4	開発的カウンセリング手法を取り入れた活動計画	56
5	本時の指導計画	57
IV	研究全体の考察	58
1	全体的な児童の変容	58
2	研究当初・研究終末の学級生活満足度の変容	60
V	研究の成果と今後の課題	60
1	研究の成果	60
2	今後の課題	60

望ましい人間関係の確立をめざして

－総合的な学習の時間における開発的カウンセリングを通して－

南風原町立翔南小学校教諭 又 吉 孝 子

Ⅰ テーマ設定の理由

学校現場では、不登校やいじめ、非行、学校にうまく適応できないなど、学校生活を過ごす上で様々な困難に直面している児童が少なくない。これらの要因としては、核家族化や少子化、遊び文化の変化（テレビゲーム等）などが考えらる。また、児童自身の耐性の欠如などもその1つにあげることが出来る。それらが複合して学級内の希薄な人間関係を引き起こしていると考えている。

児童は、学校生活のほとんどを学級で過ごしている。学級の望ましい人間関係は、互いに支え合い、成長し合うために重要である。特に、上記のような困難を抱えている児童にとって、人間関係の結び方を学習する場として、学級が大きな役割を担っている。人間関係は、理屈や言葉だけでつくられるものではない。これまで培った自分なりの関係の持ち方を互いに生かしつつ、尚かつ成長のために互いを認め合い、励まし合うような集団形成、いわゆる「望ましい人間関係」を確立させることが必要である。

今年度の学級には他の児童との関わりをもてず、毎日のように1人でマンガを描き続けているAさんや、ほとんどの活動に無気力なBさんが在籍している。彼らに学級の中における存在感を持たせるように支援したり、学級活動や道徳で『思いやり』『互いの良さを認め合う』を主題とした学習を計画的に取り入れるなど、楽しい学級づくりを心がけ実践に努めてきた。しかし、いろいろな手だてを講じたにも拘わらず、彼らを学級の輪の中へ引き入れることが十分にできなかった。彼らの持ち味を生かして居場所を確保することができていれば、学級の輪の中にスムーズに入ることができたかもしれない。

これまでの実践を踏まえて、この課題解決のために、総合的な学習の時間の中に開発的カウンセリングの手法を取り入れ、望ましい人間関係を育んでいきたい。

総合的な学習の時間は、体験的な学習やグループ学習等の学習を主とする。そこにおいては、児童が主体的に取り組むと共に、多くの人との出会いやかかわり合いを通して学習が進められる。したがって総合的な学習の時間に児童一人一人の対人関係能力、社会性の育成、即ち人間関係づくりに関する資質・能力を育むことができる。そのために、開発的カウンセリングの手法（構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング）を取り入れ、人間関係づくりのスキルを高めた。さらに、意図的に集団的活動の場（劇づくり）を設定し、継続的に組ませていくことにより、児童が互いのよさを認め合い、まわりの人たちと関わり合いながら問題を解決していくことができると考える。

そこで、総合的な学習の時間に、開発的カウンセリングの手法を取り入れることを通して、児童の人間関係づくりなどのスキルを高めていきたい。さらに、そのスキルを集団的活動の場に生かしていくことにより望ましい人間関係の確立を図ることができると考え本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

総合的な学習の時間において開発的カウンセリングの手法（構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング）を取り入れることにより、互いに認め合い、自他の考えを伝え合えるような望ましい人間関係が確立できると考えよう。

Ⅱ 研究内容

1 望ましい人間関係

(1) 望ましい人間関係とは

望ましい人間関係とは、学級の中で一人一人の個性が生かされ、自己実現に向け楽しく学び、活動することができる人間関係のことである。つまり、望ましい人間関係を育むということは、他者とのやり取りを通して、自分の気持ちや考えなどを他者に伝え、また、他者の気持ちや考えなどを理解していくことであり、コミュニケーションの能力を高めることと考えられる。

コミュニケーションとはもともと多義的な言葉だが、子どものコミュニケーションの能力といった場合、とくに「人に自分の話したいことを話せる力」を重視している。この力を核に「話を聴ける力」等、対人関係形成維持スキルなどを通して自己理解・他者理解を図らせるようにしていきたいと考えている。本学級における望ましい人間関係を次のように捉えた。

- ・相手の良い点を受け止めることのできる人間関係
- ・嬉しさを分かち合おうとする人間関係
- ・一緒に勉強する事が楽しいと言い（感じ）合う人間関係
- ・自分の考えを伝えることのできる人間関係
- ・困った時に助け合うことの出来る人間関係
- ・声に出して相手のよさを伝えることのできる人間関係

(2) 人間関係のなかでの気づきの重要性

児童は友達と活動したり遊んだりすることを通して、喜びや充実感、満足感を体験する。その体験は、彼らにはさまざまなことを気づかせていく。例えば友達とつきあうための配慮、友達のいい点、自分の長所、自分の行動や態度を変えた方が友達関係が良くなると思うポイントなどである。

気づきは、指導という形で教師から指摘されたことではないので、自分の行動や態度を修正することに大きな影響を与える。

(3) 教師の自己開示

教師の「自己開示」は、自分の感情や価値観、生活、成育歴などの私的なことを、児童に語ることであり、開発的なカウンセリングの手法を取り入れるうえで、教師の自己開示は大切である。それは人間としての生き方のモデルを示すことで重要である。自己開示が児童とのふれあいを深めるということは、具体的には、次の3つを場面に応じて開示することである。

- ①思考の自己開示（自分の人生観、価値観の開示）
- ②感情の自己開示（うれしい、悲しい、感動したなどの感情の開示）
- ③行動の自己開示（転校したことがあるなどの生い立ちや現況の開示）

- 
- ・児童が自分の生き方や問題への取り組みのヒントを得られる
 - ・教師を見習って、児童も自己開示的になる。本音を語り合うことが仲間同士の心のふれあいを促進する。その結果、学級集団の和が深まる
 - ・教師の自己開示にふれた児童は、教師への親近感を増す。親近感が増すと学校も楽しくなるし、教師の指導を自発的に受け入れようとするので、指導効果が高まる
 - ・児童の生き方や問題解決のモデルになるとともに、教師と児童、児童同士、そして学級集団全体の望ましい人間関係の形成につながるのである

2 総合的な学習の時間で生かす開発的なカウンセリングの手法

総合的な学習の時間では望ましい人間関係づくりの資質・能力を育むために、次のような開発的なカウンセリングの手法を取り入れていく。

(1) 対人関係ゲーム

対人関係ゲームは、学級集団の人間関係づくりのためのカウンセリング技法の一つであり、それに参加することによっていろいろな人間関係を体験することができる。

①不安や緊張をなくすゲーム

初期は、ある程度運動量があつて体を動かすもの、ゲーム性が高く児童の興味を引き出しやすいものを実施する。ゲームの中で、身体運動反応や楽しいという情動反応が引き起こされ、不安や緊張をゆるめ、無意識のうちに、いろいろな人とかかわることができる。

②仲間に受け入れられるゲーム（体験）

集団になじめない子どもが対人ゲームを通して、他者とのふれあいやかかわり合いがなされ、それがきっかけとなり、他者との折り合いのつけ方を学んだり、集団の一員としての存在感を覚えたりする。そのなかで自尊感情が高められ、自分に自信が持てるようになることをねらっている。集団に受け入れられる安心感、そして周りへの肯定的な認知により、お互いが伝え合うことを容易にし、コミュニケーション行動が改善されるのである。

（例）友だちビンゴ・サイコロトーク・進化ゲーム・ブレインストーミングなど

(2) 構成的グループエンカウンター

構成的グループエンカウンターは、意図的に指定された枠の中で課題に取り組むことである。またグループ全員が課題に取り組み、一人一人が感じたことを話す場を確保できるので、本音が出しやすい。意図的に一定の枠を作ることにより抵抗をやわらげて心的外傷を予防し、自己表現を容易にさせる。つまり、心と心のふれあい体験を重視して、メンバー相互の信頼感や対人関係能力を育むグループカウンセリングに近い機能を発揮し、自己発見をしながら、児童が変容し、そこから人間関係づくりへとつなげていける方法である。

構成的グループエンカウターの目標と展開

心と心のふれあい体験

自己理解・他者理解・感受性・自己受容・信頼体験・役割遂行

導 入	本時のねらいと大まかな内容の説明をする
ウォーミングアップ	リレーションづくりをする。ゲーム的な楽しいミニエクササイズで緊張をやわらげる
インストラクション	ねらいやルールを説明する。デモンストレーションで内容の理解を図る
エクササイズ	児童主体の活動
シェアリング	エクササイズを振り返り感じたことや気づいたことを相互に話し合い分かち合う
ま と め	自己評価（自己発見）を通して児童のよさを認める場

(3) 望ましい人間関係を育てるためのエクササイズ

児童は自分の気持ちを表現できなかったり、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱い傾向にある。そこで、開発的カウンセリングを実施するときには、楽しい雰囲気の中で安心して自分を表現でき、友だち関係を深め、グループで協力し合ってできるように次のようなねらいをもったエクササイズ（トレーニング）を選んで実施する。

☆他者理解をねらいとする	☆協力（団結）をねらいとする
<ジャンケンゲーム>教師と児童との壁を取り払い、互いに認め合える場を作る	<新聞紙つなぎゲーム>相手の気持ちも考えて、チームで喜びを分かち合う
<ビンゴゲーム>他者理解を促進し学級の雰囲気を高める	<〇×ゲーム>自分に関することを問題にし、チームに答えてもらう喜びを味わわせる
<動物はどれ>手品を通してリラックスする雰囲気を作り他者理解を促進する	<タイムトラベル>クラスの中での所属意識をもたせる

(4) ソーシャルスキル・トレーニング

ソーシャルスキルとは、「社会生活を円滑にするための対人関係能力」であり、ソーシャルスキル・トレーニングは社会的な問題解決能力などを養う目的でプログラムされたトレーニングを指す。人と人との付き合い方を学び、不適切な行動を改善し社会的により望ましい行動を新たに獲得していく方法である。

ソ シ ヤ ル ス キ ル	対人関係形成維持スキル
	上手なあいさつ、上手な自己紹介、上手な聞き方
	上手な質問の仕方など
	主張性スキル
	仲間の誘い方、あたたかい言葉かけ、やさしい頼み方、上手な断り方など
	社会的問題解決スキル
	トラブルの解消策の考え方など

より高度



ソーシャルスキル・トレーニングの展開

- ①インストラクション・教えようとするスキルがなぜ重要であるのか情報を与える
- ②モデリング・・・教えようとするスキルの例を示す
- ③リハーサル・・・適切なスキルが身につくように、役割演技などによって繰り返し練習する
- ④フィードバック・・・モデリングやリハーサルで示した行動に対して、ほめたり修正したりする
- ⑤定着化・・・身につけたスキルが日常生活で実践されるように、課題を与え取り組ませる

(5) アサーション・トレーニング

アサーションとは、自分の考え、欲求、気持ちなどを率直に、正直に、その場の状況にあった適切な方法で述べるということである。すなわち、アサーションという言葉には「相手のことも大切にすること」という意味があり、自己主張という日本語では、その意味が抜け落ちやすいのである。あえて日本語にする場合には「さわやかな自己表現」と表記している。

子どもたちの言語感覚を豊かにし、自分も相手も大切にしようという心を育て、さらに自尊感情を育てる手法として開発されている。

アサーション・トレーニングのねらい

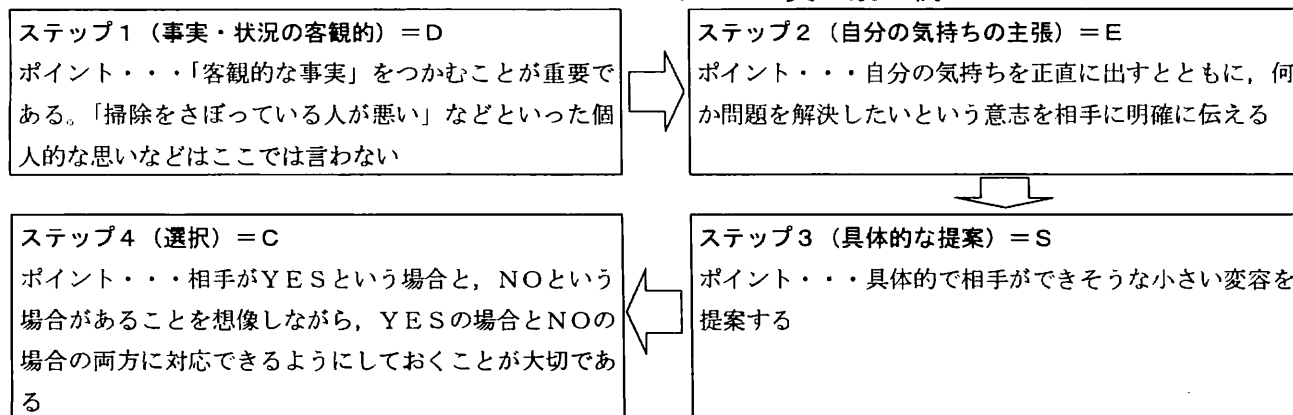
(友だちから学ぼう。自分の考えを広め、深めよう。)

◎話し手	◎聞き手
ア 根拠や理由を明らかにして発表する	ア 興味・関心をもって聞く
イ 具体的な内容で説明する	イ うなずきながら聞く (・なるほど・自分と同じだ・そうかな)
ウ 大きな声で発表する	ウ ○○さんの意見から ○○に気がつきました ○○がわかりました ○○が伝わりました ○○と思うようになりました
エ 自信をもって発表する	
オ 相手を見て発表する	

子どもたちのコミュニケーション能力向上に役立つ例としてDESC（客主提選）{D=describe, E=express, explain, S=specify, C=choose}の手法がある。

下記のDESCはソーシャルスキル・トレーニングの中の社会的問題解決に、生かされるスキルである。

DESCでの実践例



Ⅲ 授業実践

1 単元名 「カボチャの劇をつくろう」

2 単元設定の理由

(1) 単元観

集団生活の中で望ましい人間関係を築くには、自分や友達のよさを知り、それを肯定的に受け止めることが基本となる。自己のよさ、他者のよさを肯定的に受け止めることで、互いを認め合える、居心地の良い学級にもなると考える。学級がよりよい集団となるように、様々な人間関係を体験できる創作劇に取り組むことにより、望ましい人間関係を育む基盤づくりをしていきたい。

児童は、学習活動、給食、清掃活動等でグループの友達と関わっている。休み時間は、仲良しの友達と過ごすことが多い。しかし、それらは限られた級友との関わりである。そこで、より多くの級友との多様な関わりをもつことのできる創作劇作りを体験させることにより効果的に人間関係に関する知識や具体的な技術が身につく、お互いのよさを認め合い、望ましい人間関係を育むことができるであろうと考える。

劇作りは、「脚本を作る、音楽を考える、背景幕を作る、台詞を覚える、立ち稽古をする」等の多様な学習活動を含んでいる。それだけに多くの児童が自分のよさを発揮できる機会にめぐりあえる可能性を秘めている。

(2) 児童観

① 学級の実態

本学級は、明るく元気があり活動的である。その反面自己主張が強く、些細なことで口論になりやすく、相手を言葉で傷つける児童も数人いる。また友だちが発表すると冷やかしたりして、学習を妨げたりする傾向がある。

10月下旬に実施した心理検査（ポエム）の結果によると、セルフコントロールや適応型の出現率は80%を占めていて平均的な学級である。しかし、受容感（どれくらい周囲から受け入れられているか）8%，不安傾向40%の出現率は過剰に適応している。学級レベルから個々の児童レベルに目を移すと、不適応で苦しんでいる児童や無理に適応しようとして自分を出せずに悩んでいる児童も何人かいる。本学級の児童は自分の気持ちを表現できなかったり、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱い傾向にあることがわかった。望ましい人間関係づくりを目指すためには、そのような児童に対するきめ細やかな指導・支援を行う必要がある。

② 抽出児童の実態

Aさんは、気分にもムラがあり気が向かないとみんなと一緒に活動しない。授業中は、手いたずらが絶えない。自分の思いが通らない場合は物を投げたりする。その反面機嫌がいい時にはいろいろな先生にあいさつをしたり、当番活動も自ら実施する。ポエム検査によると、セルフコントロール攻撃性の分野がやや不適応で、不安傾向が強い不確定型である。自分に自信を持っているので、その自信をうまく利用して不安傾向を取り除くことが大切である。要支援群の児童として個別的な支援が必要な児童である。

Bさんは、友だちとの関わりが苦手で遊びたいけど自分から声を掛けることができずにいる。朝食ぬきの日が多く学習意欲はほとんどない。常に声を掛けてないと月曜日は休みがちになる。ポエム検査によると、受容感・効力感・対人積極性の分野が不適応である。まずは、教師がBさんの受容感を高め、周りの友達にもBさんのよさを伝えていく必要がある。

(3) 指導観

児童の実態から、学級全体を対象に「自己理解」「他者理解」を効果的に育むことのできる、予防的・開発的な取り組みの支援として「構成的グループエンカウンター」を取り入れる。また望ましい人間関係づくりを築くための知識と具体的な技術を身につける「対人関係ゲーム」「ソーシャルスキル・トレーニング」「アサーション・トレーニング」など開発的カウンセリング手法を取り入れたい。

授業を通して学級全体を対象に予防的・開発的に取り組む支援と、要支援群に属する児童や、不適応で苦しんでいる児童や無理に適応しようとしている児童への、個別的な援助や助言などの働きかけをうまく組み合わせること、さらに学習した内容が、日常でも活用されるための具体的な手だてを講じることも大切にしていきたい。

3 単元の指導目標

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる。
- ② 開発的カウンセリングの手法を総合的な学習の時間の中に取り入れることにより、自己理解・他者理解を図るとともに、対人関係スキルを身につけさせ、望ましい人間関係を育てる。

4 開発的カウンセリング手法を取り入れた活動計画

時間	学習活動	□ 学習スキルの経験 ・留意点	開発的カウンセリングの手法 □ エンカウンター・「 ☐ 」ソーシャルスキル	(評価) ☆総合的な学習の時間 {評価方法} ○カウンセリング
6	・南風原の特産物って何？ 学習テーマをつかむ (1) いろいろな特産物をウェブページで出し合う ①詩・絵に表す ②カボチャ料理を作ろう 課題の設定	・特産物についてのイメージマップ ウェブページによる課題の整理 ・五感をつかいカボチャの絵を描き興味を持たせる	相手のよさを認め合うエクササイズ (君はプロ) 自己理解、他者理解、感受性	☆自分のイメージを伝えることができたか(観察) (関・意・態) ○自分らしく表現することができたか(観察)
3	(1) カボチャについてのウェブページを行う (2) 興味・関心を生かし自分の調べたいテーマ(課題)を決める (3) グループをし、グループの課題を決める 課題の追求	・ウェブページを行い各自のイメージ化を図れるようにする ・友達同士かたよらないように配慮する	一人一人のことを知る (すごくトークン)	☆自分でテーマを決めることができたか (課題を見つける力) {ワークシート}
3	・それぞれのグループで、課題解決に向けて見通しを持った学習計画を立てる ・調べたいこと・調べたい理由・方法と役割分担等 課題の整理	・ポートフォリオ・デジタル・カメラ等の活用 ・学習計画を立てることによりで決まった活動ができるようにする	主張性スキル あたたかい言葉かけ やさしい頼み方	☆協力して課題を決めることができたか (課題を見つける力) ○一人一人の個性にあった役割を設けることができたか(観察)
3	・集めた情報を分類し取材の準備と練習をする ・インタビュー・電話のかけ方・コンピュータの使い方 図書館の利用の仕方等計画に従って活動する ・地域に出かけ祖父母に聞いたり、資料を調べる 中間発表	集めた情報の分類を整理する ・調べ方について様々な方法や資料を提供したりする ・役割を決める ・カボチャについての項目を立てて整理する	主張性スキル 対人関係形成維持スキル 上手なあいさつ、上手な自己紹介 上手な聴き方、話し方、質問の仕方、他者理解、自己理解	☆身近な人にインタビュー等をして印刷物、放送、ネットなどのメディアから情報を集めることができたか (課題を追求する力) {ワークシート・観察}
3	・これら調べたことを、ミニ新聞でまとめる (・テーマ、調べた理由、調べてわかったこと)	・カボチャ新聞を作る ・対人関係形成維持スキルを生かしながら発表する ・カボチャの劇を作る	自分の考えを主張するエクササイズ (いいとこ四面鏡、サイコロトークン) 対人関係形成維持スキル 上手なあいさつ、上手な自己紹介、上手な聴き方、話し方、質問の仕方 アサーション・トレーニング 発表者のよさを見つけ、さらに改善点を助言するエクササイズ (幸せを運ぶ手紙) 他者理解、自己受容、役割遂行	○あいさつや自己紹介、質問ができたか(観察) ☆新聞作りに力を発揮し、分かりやすく発表ができたか(表現する力) {ワークシート}
12	最終報告会 ・発表会(劇)をしよう (音楽・ナレーション・登場人物(前半・中後半)	・劇に必要な係をウェブページでみつけよう ・係にふさわしい人を見つけてよう(本時)	相手のよさを認め合うエクササイズ (君はプロ)	☆劇作りに力を発揮できたか(表現する力) {ワークシート・観察}

2	声優・壁面班・小道具班に分かれて)	・グループで協力しながら劇の練習をしていく	主張性スキル あたたかい言葉かけ やさしい頼み方 ロールプレイング、他者理解	☆新たな情報を活用しながら特性に応じて適切な表やグラフ、劇などにまとめたか（表現する力） 〔ワークシート・観察〕
	情報の発信 ・今まで練習した成果を出せるようにする	発表会を開こう (学びフェスタ) ・練習した成果が出せるように自分らしく表現する ・劇・ポスターセッション	アサーション・トレーニング コミュニケーション能力向上 DESCの手法 自己受容、他者理解 (心と心の触れあい体験)	○劇づくりをして望ましい人間関係が育まれたか (関・意・態)

5 本時の指導計画

(1) 題材名 「係にふさわしい人をみつけよう」

(2) ねらい

- めあてについて自ら考え、自分らしい言葉で発表することができる。 (総合：表現する力)
- 互いに上手な自己主張を行い、他者を理解し係にふさわしい人をみつけようとすることができる。 (カウンセリング)

(3) 授業の仮説

- 係について話し合う場で、係にふさわしい人考えることにより（アサーショントレーニングの手法で）、友だちのよさに気づくことができるだろう。

(4) 本時の展開

過程	活動内容	開発的カウンセリングを生かした手法 ◇ソーシャルスキル ☆エンカウンター	教師の支援と指導上の留意点 ◎評価<観点>〔評価方法〕	☆A子★B男への 手だて
導入 (5)	○教師が友達のプロについて紹介するのでみんなで当てる	・ 前回の討論会でよかった点を話し、今回も頑張ろうと励ます ☆ウォーミングアップ (君はプロ)	<他者理解> ・ 君はプロを思い出して名前を当てる	☆★一緒に参加するように声をかける (受容感を持たせる)
展開 (30)	1 今日のめあてを確認する。 (係にふさわしい人を見つけよう) ・ 上手な聴き方 ・ 上手な話し方 係にふさわしい人はどんな人がいいか話し合ってください 2 ふさわしい人を発表しよう 各グループの代表は、発表してください。 どんな係になりたいですか ・ 自分がなりたい係に挙手する ・ 自分の意見はしっかり持つ	◇上手な聴き方 (モデリング) ◇上手な発表の仕方 (アサーション・トレーニング) ◇あたたかい言葉かけ ◇上手な聴き方・発表の仕方 ・ 人に推薦されても自分の意見は持つように声をかける。 ◇上手な断り方 (主張性スキル)	・ 全児童にめあてを書いたフラッシュカードを掲示し一斉に読ませる。 ・ 前回までに決まっている係を読み上げる <他者理解> ◎自分らしい言葉で係にふさわしい人をみつけ、発表することができたか〔観察〕 ・ 係が一部に集中した場合「これでいいかな？」と考えさせる	☆一緒に読むように声をかける (効力感を持たせる) ☆話し手の方を見るように声をかける (向社会性を持たす) ☆手遊びをしていたらやめるように納得させる (セルフコントロール) ☆★どんな係になりたいか問いかける (受容感をもたせる)
まとめ (10)	3 授業を振り返り、自分の考えや感想・意見をまとめる 今日の学習での感想を書きましょう 4 感想発表 今日の感想を発表してください 5 まとめをする ・ よく発表した児童を賞賛する 6 次時の確認をする	☆シェアリング：フィードバック (ふり返り) 用紙に記入することで自分自身をみつめ友達の頑張りを評価する ・ 頑張った友だちはいないか考えるように呼びかける。(話し合い・わかち合い) ◇上手な聴き方・発表の仕方 ・ 友だちの発表を聴いて、感じたこと気づいたことを共有しあう ・ 不安の解消と意欲の高揚を図る	◎積極的に感想を発言することができたか〔観察〕 ・ 意欲が高まるように次時の内容を説明する	☆★「友達のいいところや、自分なりに頑張ったところはないかアドバイスをする (受容感・効力感を持たせる) ☆★話し手の方へ耳を傾けさせ意欲の高揚を図る (向社会性を持たせる) ☆次時の予告を再度確認する (不安傾向をなくす)

IV 研究全体の考察

1 単元を通しての考察

学 習 活 動	開発的カウンセリング □エンカウンター □ソーシャルスキル	児童の反応・太枠は本時 ◇は実践カード ○は日記	考 察
ウェビングによる課題の整理 ・詩、絵に表す 課題の設定 ・グルーピングをしグループの課題を決める 課題の追求 ・それぞれのグループで、課題解決に向けて学習計画を立てる 課題の整理 ・地域に出かけ祖父母に聞いたり、資料を調べる 中間発表 ・新聞を発表しよう ・ミニ新聞でまとめる（・テーマ、調べた理由、調べてわかったこと）	相手のよさを認め合う エクササイズ（君はプロ） 一人一人のことを知る （すごろくトーキング） 全員で楽しむ （なんでもバスケット） あたたかい言葉かけ やさしい頼み方 対人関係形成維持スキル 上手なあいさつ・上手な自己紹介・上手な聴き方 話し方・質問の仕方 サイコロトーキング 他者理解 発表者のよさを見つけさらに改善点を助言する エクササイズ （幸せを運ぶ手紙） 他者理解・自己受容 役割遂行	◇Cさん：「そうじのプロ」と言われてうれしかった。またがんばりたい ◇Bさん：「空手のプロ」と言われて少しはずかしい ◇Bさん：ゲームみたいに絵を紹介するので、はずかしくなかった ○Dさん：自分と同じ課題で調べたい友だちがいたので一緒にがんばりたい ◇あたたかい言葉をかけられると心も温かくなるということがわかった。これからは、私も気をつけたいです ◇Mさんが、やさしい頼み方で誘ってくれたので同じグループになりました ◇Aさん：みんなは、上手な聴き方で私の話を聴いてくれました。気持ちがよかったです ◇Eさん：あいさつや自己紹介をちゃんとやったので、とても誉められました ○当番の手伝いをしたら「ありがとう」という手紙をもらってうれしかった ○Aさん：「Nさんに発表が上手だね」という手紙をもらってうれしかった	・Aさんもプロさがしがすぐにできたのはエクササイズ（君はプロ）が有効であったと言える ・Bさん「はずかしい」と言っていたが久しぶりに笑顔を見せていた ・左記のDさんは、一人ではなかなか課題が見つけれなかったが同じ考えの児童がいたことで安心感を抱いている ・「あたたかい言葉」で喜びを味わうことができていた ・左記のスキルを実施した後、児童の聴き方や発表の仕方が良くなってきた ・日頃、発表の苦手なBさんがサイコロトーキングを実施すると発表することができた ・左記のエクササイズ（幸せを運ぶ手紙）後も児童は自分達で手紙のやり取りをして、他者理解を深めていた。その結果、休む児童が減ってきた ・Bさん：左記のエクササイズ（幸せを運ぶ手紙）や壁画の原画が採用されたことは、クラスみんなに認められたことである。その後は授業も自主的に受けるようになり目の輝きがしだいに増してきた
・「○○プロを思い出してみよう」 係にふさわしい人を見つけよう（本時）	相手のよさを認め合う エクササイズ（君はプロ） 上手な聴き方 上手な話し方 あたたかい言葉かけ	T1「給食当番のプロは誰でしょう？」 C1「Sさんです」 T1「まとめ役のプロはだれですか？」 C2「まとめ役のプロはEさんです」 T3「登場人物にふさわしい人は誰でしょう？」 C3「元気な人でMさんです」 T4「壁画係にふさわしい人はどんな人がいいですか？」	・「給食当番のプロは誰でしょう」の問いかけは、児童がすかさず反応したことからエクササイズ（君はプロ）は有効であった ・児童は左記のスキルを使いながら話し合いを進めたので、自他の理解が深まった ・「○○はどんな人です」という発表方法の指導は、多くの児童に対し

・係にふさわしい人 を話し合 ってくだ さい ・どんな係 になりた いですか		C 4 「色づかいが上手な人 がいいと思います」 T 5 「音楽が係にふさわし い人はだれですか」 C 5 「音楽係に詳しい人は Hさんです」 T 6 「音楽は詳しくないと いけないの？」 C 6 「声大きい人がいい と思います」 C 7 「練習すればいいと思 います」	して自分の考えを伝える行動に結 びつかせることになった ・T 5 は、係にふさわしいことの根 拠が『詳しい』だけでないことを 児童に気づかせた。それと共に児 童の想像力が活性化され、『自分 なりの拠拠を創り出し、それを伝 えた』と言える 自分の考えを伝えるというこ とは「何故そう思うのか」を明確に して相手のよさを認めていること だと言える ・左記のスキルを実施することによ り、児童は他者理解を図りながら 感想を述べることができた
・感想を発表しよう 今日の感想を 発表してください	発表の様子 ・シェアリング 上手な発表の仕方 あたたかい言葉かけ 上手な聴き方	T 7 「では、誰が来てもいいですね」 C 8 「上手な聴き方で話を聴くと、話の 意味が分かりやすかったです」 C 9 「F さんがあたたかい言葉かけで話 を進めてくれました」 C 10 「G さんが自分から音楽係になりた いと発表したのでえらいと思いまし た」 B さん：「壁画係とシンバルに選ばれて よかったです。がんばります」 C 11 「絵が上手ということで壁画係にえ らばれて、とてもうれしかったです」 C 12 「私は音楽係に推薦されたのでうれ しかったです」	・G さんは、他の係に推薦されてい たが自分の意見を通したので上手 な断り方がうまくなると言える ・B さんに「シンバルをやってみな い？」と声かけをし、なんとかO Kをもらった。驚いたことに、と ても上手だったのでB さんのよさ を再発見できた
・グループで協力し ながら劇の練習を していく 発表会を開こう 学びフェスタ 『世界へ発信・翔南 カボチャ』 ・自分らしく表現す る	主張性スキル ロールプレイ 他者理解 アサーション ・トレーニング コミュニケーション 能力向上 DESCの手法 自己受容・他者理解	 発表会の様子 ○A さん：練習した成果が全部出せたの でとってもうれしいです。来年もがん ばりたいです ○H さん：今日は一番上手にできました 。また、みんなもがんばってました	・小道具係や壁画係は自分 達で原画を作成して 協力し合いながら取り 組んでいた ・A さんは研究を通し、 みんなに認められる機 会が増え、またセルフ コントロールができる ようになってきた ・動作や台詞覚え等を係 で相談しながら取り組んでいる様 子が見られた。その結果、他者理 解が深まった ・A さんは、楽しそうに声優と木琴 の練習に励んでいる姿がみられた ・一人一人の児童が発表会を終えて 満足感に満ちあふれていた

研究当初

友 達 か ら 認 め ら れ て い な い	学級生活に満足している (11人)	♂♂♂ ♀♀♀♀♀♀	友 達 か ら 認 め ら れ て い る	学級生活に満足している (6人)	♂♂ ♀♀♀♀
	学級生活に満足していない (16人)	♂♂♂♂♂♂♂ ♂♂♂♂♂♂♂ ♀♀♀♀	友 達 か ら 認 め ら れ て い る	学級生活に満足していない (7人)	♂♂♂♂ ♀♀♀

研究終末

友 達 か ら 認 め ら れ て い な い	学級生活に満足している (3人)	♂♂♂ ♂♂♂♂♂♂♂♂♂ ♂♂♂♂♂♂♂♂♂ ♀♀♀♀♀♀♀♀	友 達 か ら 認 め ら れ て い る	学級生活に満足している (36人)	♂♂♂ ♂♂♂♂♂♂♂♂♂♂ ♂♂♂♂♂♂♂♂♂♂ ♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀
	学級生活に満足していない (1人)	♂	友 達 か ら 認 め ら れ て い る	学級生活に満足していない (0人)	♀♀ ♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀

○抽出児 A □抽出児 B

学級生活満足度のアンケート結果によると、研究当初では「友達に認められていない」が27人であったが、研究終末では「友達に認められている」が36人になった。一方、「学級生活に満足していない」が23人だったのが、研究終末では「学級生活に満足している」が39人となった。このことから、互いの人間関係づくりが深まったと言える。

以上のことから、総合的な学習の時間で開発的カウンセリングの手法を生かした授業を実施することにより望ましい人間関係が育まれ、児童が生き生きと活動するようになったとすることができる。

1 研究の成果

- ## 2 今後の課題

- ### ＜主な参考文献＞

國分康孝	『育てるカウンセリングが学級を変える』	図書文化	1998年
児童心理	『コミュニケーション力を育てる』	金子書房	2003年
全教育研究所連盟	『学級担任による教育相談の展開』	東洋館出版社	1989年
國分康孝	『エンカウンターで学級が変わる』	図書文化	1997年